

研究主題

「よりよく生きようとする道德的判断力、
心情、実践意欲と態度の育成」

～心を動かす道德教育の充実を目指して～

鳩山町立鳩山小学校

1 研究主題の設定理由

本校の児童の特色は、素直で優しく、言われたことや示された課題に対しては取り組むが、主体的に自ら進んで取り組んでいこうという意欲が弱い。また、創意工夫し考えたり行動したりする力、自分たちの理想に向けて強い意志をもって努力を積み重ねていく力が不足している。そこで、平成27・28年度の特別活動の学校研究、29年度の道德の研究で積み重ねたことを生かし、本年度は、さらに道德科において育成しようとする道德的諸様相に注目し、学習方法の工夫・改善を通して自己の生き方についての考えを深め、よりよく生きようとする児童を育成するために研究主題を設定した。

2 研究の仮説

- (1) 系統性をもった具体的な話し合い活動の場面（低学年＝ペア、中学年＝3人、高学年＝4人以上）と役割演技を効果的に設定するとともに、友だちの意見や発表をよく聞く（低学年）、自分の意見と比較しながら聞く（中学年）、友だちの意見を聞き自己を見つめ直す（高学年）機会を意図的に設ければ、児童は課題に対して考え、議論する力が身に付くであろう。
- (2) 児童の意見を類型化しながら整理し、一人一人の意見を引き出すことで、板書の工夫をし、考え議論する道德の展開が可能となるであろう。

※学習活動における児童一人一人の「気付き」を大切にすることで、多面的・多角的な考えに触れながら、さらに自己を見つめ直し、自己の生き方についての考えを深めるであろう。

3 研究の経過

	研 修	内 容
1 学 期	学校課題研修全体会 研究推進委員会 校内研修	学校課題研修全体会 学校課題研修主任からの提案 研究の進め方について 指導案検討会教材研究

〈様式2〉平成30年度埼玉県道徳教育研究推進モデル校・協力校 実績報告書

	授業研究会研究協議会 6月14日	学校課題研修全体研修会 第1回授業研究会 研究協議会 講師：開智国際大学准教授 土井 雅弘 先生 5年1組 清水 明日香教諭
	研究推進委員会 学校課題研修	先行授業教材研究 教材の選択、授業の計画 教材研究指導案検討
	指導案検討会 指導者 後藤輝明先生	学校課題研修 指導案検討会 各ブロック 指導者後藤輝明先生
2 学 期	校内研修 指導案検討会	ブロック別指導案検討
	授業研究会 研究協議会 9月27日	学校課題研修 先行授業研究会 2年1組 久保田貴大教諭 指導者 鳩山町立今宿小学校長 時山 久美子先生
	玉川班人権教育研修会 10月4日	玉川班人権教育研修会 6年2組 新井孝幸教諭 指導者 西部教育事務所指導主事 後藤 輝明先生
	授業研究会 研究協議会 10月15日	学校課題研修 先行授業研究会 4年1組 伊藤 靖子教諭 指導者 東松山教育委員会指導主事 佐藤 里枝先生
	西部地区 道徳教育研究協議会 11月30日	低 築地まり子教諭「マラソン」 中 落合 和範教諭「かなちゃんへの手紙」 高 岡田 優子教諭「ちょっとひどくない？」
3 学 期	校内研修会	各学年・学級の取組から実践報告 研究紀要について 研究紀要作成 研究紀要綴じ込み

4 研究の内容

平成30年度 学校課題研究	
大切にしたいこと	重点項目
<ul style="list-style-type: none"> ・考えることができる児童 ・議論することができる児童 	<ul style="list-style-type: none"> A 希望と勇気 B 親切、思いやり C 公正、公平、社会正義 D よりよい社会生活、集団の充実
<p style="text-align: center;">↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・気付くことができる児童 ・自己を見つめることができる児童 	

(1) 低学年ブロック

【主題名】苦手なことを避けない A (5) 希望と勇気 努力と強い意志

【ねらい】自分のやるべき勉強や仕事は、あきらめずにしっかり行う態度を育てる。

【教材名】「マラソン」 (出典 彩の国の道徳「きょうもげんきに」)

【話合いの視点】

①足が痛くないのに体育の授業を見学したゆきおについて考える。

〈様式2〉平成30年度埼玉県道徳教育研究推進モデル校・協力校 実績報告書

嘘について体育の授業を見学してしまったゆきおの行動について考え、自分の気持ちに負けてしまうこともある人間の弱さを感じとらせ、話し合い、考える。

②逆上がりの練習をするあきらを見たゆきおの気持ちを考える。

ゆきおとあきらの役割演技を通して、できなくても目標をもって努力し続ける大切さについて考え、価値を深める。

③元気に校庭に走っていくゆきおの気持ちを考える。

あきらめずに取り組もうという気持ちに気付かせる。



(2) 中学年ブロック

【主題名】友だちと接する時に大切なこと B(9) 礼儀

【ねらい】礼儀の大切さを知り、だれに対しても真心をもって接し、言葉に気をつけて生活しようとする態度を育てる。

【教材名】「かなちゃんへの手紙」 (出典 彩の国の道徳「みんななかよし」)

【話し合いの視点】

①かなちゃんの机の前で心臓がドキドキしたわたしの気持ちを考える。

心情円盤を使って、自分を入れてしまう気持ちが強いか、入れない気持ちが強いか立場を明確にして、小集団→全体で話し合う。相手の言葉を聞いて考えが変わっていくケースも許容する。

②「思わず座り込んでしまった」わたしの気持ちを考える。

相手にも都合があったこと、自分の言い方がきつくて相手は言い出せなかったのではないかということ話し合い、考える。

③友だちと接するときに大切なことについて考える。

誰に対しても真心をもって接することが大切であることを考える。



(3) 高学年ブロック

【主題名】言葉づかいは心づかい [B(9) 礼儀]

【ねらい】相手の立場や気持ちを考えた言葉遣いや態度について考えを深め、自分も相手も気持ちよく過ごせるようにしようとする態度を育てる。

【教材名】「ちょっとひどくない？」 (出典 彩の国道德「夢にむかって」)

【話し合いの視点】

①友だちと「うざい」という言葉をつかっておしゃべりをしていた私の気持ちを考える。

「うざい」という言葉をよくない言葉と知りながらも、友だちと一緒に使ったことでの一体感やうれしい気持ちに共感させる。さらに、その言葉を友だち(節子)にも向けてしまったときの私の気持ちを話し合うことで、言葉を使うときに大切なことや気をつけようと思っても実現できない難しさを改めて考えさせる。

②美代子や志保、節子の顔を見比べながら私は何を考えていたのか話し合う。

ここでは、今まで何気なく使っていた言葉が自分に向けられて初めて、言われた相手の気持ちに気づき、私の言葉についての考えがどう変化していくかを考える。そして、相手も自分も気持ちよく過ごすためには、相手を思いやった礼儀正しい言葉づかいや行為が大切であるという道德的価値についての理解を深めていく。



5 研究の成果と課題 (○成果 ●課題)

○子どもと教師が、共に考え、議論する授業を通し「一緒に悩み、語り合い、理解し合おうとする温かな雰囲気」が醸成された。

○教師の問いかけが、子どもの主体的な学び、対話的な学びを引き出し、「物事を多面的・多角的に考える」学びの姿を具現化することとなった。

○役割演技を通して、子どもの気づきが言語化され、「話し合いの内容をより自分事」としてとらえることができるようになり、「規律ある態度」の育成につながった。

●議論が活発になればなるほど、スピーディーな板書と的確な問いかけが重要となり、児童の多様な意見を効率よく整理し、思考の明確化と議論の深まりを手助けする板書の在り方が今後の課題である。